

審議（会議）結果

審議会名称 第16期第3回神奈川県生涯学習審議会

開催日時 令和6年2月5日（月）9時30分～11時30分

開催場所 神奈川県庁東庁舎11階会議室

出席者【会長・副会長等】

石川 巧（神奈川県議会議員）

伊藤 真木子（青山学院大学教授）【副会長】

稲川 由佳（神奈川県社会教育委員連絡協議会理事）

小池 茂子（聖学院大学長）【会長】

小森 素好（神奈川県 P T A 協議会監事）

杉下 由輝（公募委員）

夏井 美幸（神奈川県公民館連絡協議会会長）

野内 みつえ（神奈川県議会議員）

橋本 恵美子（神奈川県公立小学校長会副会長）

八巻 義徳（公募委員）

山崎 真理子（特定非営利活動法人かながわ女性会議会員）

※五十音順

次回開催予定日 未定

所属名、担当者名 生涯学習課 奥田、沢

掲載形式 議事録

議事概要とした理由 ー

審議（会議）経過

1 開会＜事務局＞

2 あいさつ＜生涯学習部長＞

3 議題 県立学校における地域学校協働活動の推進について

○小池会長

新年が明け、今日初めて、また皆さんとお目にかかり、第3回生涯学習審議会の議論を始めたいと思います。

39 今年の正月は、大きな災害がありまして、私もその日から学校関係者に連絡をして、学生、教職
40 員、受験の内定者の安否確認の連絡をする、大変な状況から始まりました。

41 翌日には飛行場での大きな事故があり、よもや誰かがそこに乗り合わせていないかと、皆様にお
42 いても大変御心配のことだったかと思えます。

43 もし、御関係の皆様におかれまして、今回の大災害等で苦しんでおられる方がいましたら、心か
44 らお見舞い申し上げたいと思えます。

45 災害が起こると、地域や社会教育施設が重要であることを改めて認識させられます。

46 子どもたちを支えていく、また、逆に子どもたちを地域のマンパワーの一つとしていけるように、
47 行政、地域、学校が連携して地域におけるコンソーシアムを作り、いざとなったら力を合わせる体
48 制ができていることが、本当に望ましいと思えます。

49 今回のテーマの地域学校協働活動について、小中学校は、地域に子どもがいるので、そこで連携
50 するビジョンは立ち上がりやすいのですが、県立学校における地域学校協働活動ということが、今
51 回の審議会に求められる条件です。

52 前回の議論を踏まえ、事務局が、審議の中で挙げた課題について資料1にまとめてくださって
53 います。さらに、県立の学校と地域が協働活動を行う事例についても質問がありましたので、その
54 ことについても参考資料1、追加調査結果を作成していただいています。審議に先立って、資料に
55 ついて、事務局から御説明をいただきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

56 ○事務局

57 この参考資料1は、6つの県立学校の事例について、過去の資料やヒアリングで調査したもので
58 す。まず前回御紹介した学校について、地域と学校の協働の具体事例と課題をまとめています。

59 事例1は、地域学校協働推進員を置き、地域学校協働本部により活動する3校の県立学校のうち
60 の1校です。

61 地域団体を設立し、インターンシップ、ボランティアなどの学校外の活動において、会員の事業
62 者を受入先としています。受入先の掘り起こしや生徒とのマッチング、生徒への事前研修を団体の
63 運営委員会が行っています。

64 学校側は活動を通して生徒が地域課題に目を向け、その解決に向けた学習意欲が芽生えることを
65 利点として、進学率向上を目指してこの活動を必修化しました。

66 地域側のメリットとしては、地域課題に目を向けた若者が、一度地域を出て専門知識と人脈を得
67 たあと、課題を解決するために帰ってくる長期的な意義があります。

68 立ち上げの経緯について、設立前、地域連携の一環として、校内に自衛消防組織を発足したとこ
69 ろ、地域内で意義ある活動ができたが、担当教員が都度、連絡調整に追われてしまったとのこと
70 でした。この経験から、学校外の活動の必修化にあたって、地域学校協働活動の導入校に手を挙げ、
71 連絡調整のための組織を設立しました。

72 立ち上げ時の主要メンバーと依頼の経緯ですが、会長は、学校に理解のある人材として、設立時
73 の校長と面識があった、地域のボランティアとして活動する元校長に依頼しています。事務局であ
74 る地域学校協働活動推進員は、インターンシップの推進を行うコンソーシアムサポーターに、団体
75 の事務局の兼務を依頼した形です。地域学校協働活動推進員とともに学校と地域のコーディネータ
76 ー役となったスタッフは、町民活動サポートセンターに紹介された方でした。

77 成果について、地域と学校の連絡先が集約されたことによって協力関係が結びやすくなったこと
78 が挙げられました。また、コーディネーター役のスタッフが活動理念に共感し、「学校の子を育て
79 ることが地域のためにもなる」という視点を地域に共有してくれたことが、学校にとってありがた
80 いことだったとのこと。

81 課題として、コロナウイルスの流行から活動が難しくなり、必修を取り消してしまい、一度活動
82 が下火になったことから、今は就職のためのインターンシップとしての意味合いが強くなるなど、
83 立ち上げ時の課題意識と今の活動内容にずれが生じていることが上がりました。

84 また、立ち上げ時の人探しには苦勞されていて、校長が時間をかけてメンバーを集めた様子でし
85 ました。

86 続いての事例2も、地域学校協働本部がある学校です。県の「地域の支え合い仕組みづくり事業」
87 として始まり、イベントコラボや地域のPR活動で、地域活性化や情報発信の充実の成果を得た活
88 動ですが、地域学校協働本部導入にあたり生涯学習課が橋渡しをした例として前回御説明していま
89 す。

90 詳しい経緯ですが、生涯学習課で地域学校協働活動の新規実施校の候補を探す際、退職校長で組
91 織するNPOから、メンバーを通して学校運営協議会で学校の意向を調査、こちらの高校が候補に
92 なったとのこと。元県立高校校長でNPO顧問の公民館館長と、県公連事務局がある生涯学習
93 課、学校で打ち合わせを行い、地域側の協働に対する要望を共有して、地域学校協働活動を導入し
94 ていただいた経緯です。

95 課題としては「地域の支え合い仕組みづくり事業」終了後の事業継続と自走化が挙げられていま
96 す。

97 事例3は地域学校協働活動推進員や本部によるものでなくても、地域と学校が繋がる例として前
98 回も御紹介した学校です。また、こちらは前回質問がありました学力の高い、進学率の高い学校で
99 もあります。

100 生徒が、学校近辺で絶滅危惧種である「トウキョウサンショウウオ」を偶然発見したことから保
101 全活動を開始しました。

102 この学校は国のスーパーサイエンスハイスクールに指定されており、この保全活動を理数教育活
103 動の中心に位置付けています。生徒自身がワークショップ等を企画し、企画力や発信力が大きく成
104 長しており、また、ワークショップに参加した子どもが生徒に憧れ、入学する例もあるとのこと
105 です。

106 連携先の広がりについてお聞きしたところ、発見当初は生物の教員の人脈等で専門家に呼び掛け
107 たそうです。研究が進んでからは、生徒が参加したイベントで、専門団体から声がかかることもあ
108 るとのことでした。また、科学部のSNSにより、生徒が他校の生徒と繋がることもあるそうです。

109 地域の商店街との連携は、科学部顧問の教員とその元教え子との繋がりをきっかけに始まったと
110 のことで、現在も、科学部顧問が商店街、近隣小中学校等と学校を繋げるコーディネーター役とな
111 っています。

112 スーパーサイエンスハイスクールは研究機関や大学など、地域に限らず様々な連携先と授業等を
113 運営する取組なので、事業開始直後は連絡調整の負担の大きさに教員から不満の声があったよう
114 す。しかし、連携活動によって目に見えて生徒が成長したことから、数年後には労力に見合う教育

115 効果が認識されたそうです。

116 地域との連携については、以前担当教員の異動により連携が途絶えたこともあったようですが、
117 現在は職員室内の風通しもよく、担当教員以外にも地域住民と関わる機会もあることから、異動後も
118 継続しやすい環境になっています。

119 また、近隣住民にOBが多いという特色があり、継続についてOBの役割が重要であると伺いま
120 した。

121 続いて（２）特別支援学校の地域連携について、事例４は地域学校協働本部がある学校３校目で
122 す。２名の地域学校協働活動推進員が地域事業のコーディネーター役を担い、様々な活動をしてい
123 ます。学校が地域のコミュニティづくりに貢献し、地域のコミュニティの拠点となることを目指し
124 ています。

125 立ち上げの経緯ですが、この学校は1940年代に設置された県立の児童養護施設の跡地に開校しま
126 した。開校時から「地域とともに歩み、地域に貢献する」ことを学校のミッションの一つとして挙
127 げており、様々な条件が整っていることから本部設置のモデル校の候補になりました。

128 地域学校協働活動推進員依頼の経緯については、１人目はPTA会長の方へ依頼しています。校
129 長が会話をした際に、地域の活動に積極的な様子が見られて、何かをお願いしたいと思っていたと
130 いうことです。２人目は、協議会会長の紹介で、地域で様々な分野で活躍している方が推薦されま
131 した。

132 特別支援学校の地域連携の考え方について、特別支援学校は地域との密着性が弱いことが課題と
133 して挙げられています。高等学校と同様に、通学区域が広域であることから、近隣の地域のコミュ
134 ニティで取り組むのか、福祉に関するテーマを同じくするコミュニティで取り組むのか、地域の捉
135 え方について議論を重ね、両者をバランスよく考えていくことで、その学校らしいコミュニティが
136 つくられていくという考え方にまとまりました。

137 次に、（３）学力向上進学重点校の地域連携について、事例５は進学率が100%に近く、事例３と
138 同じく先進的な理数教育を行うスーパーサイエンスハイスクールの指定校です。今回初めて御紹介
139 します。

140 まず、地域との連携への考え方ですが、生徒も保護者も「進学」という明確な目標をもっており、
141 通う地域も多様で、学校がある地域との繋がりが薄い現状です。

142 一方、国のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、運営指導員から、生徒を理系人材と
143 して育てる協力を得ています。運営指導員は全員OBであり、エリアはバラバラだが、生徒の探究
144 学習を支えるコミュニティといえたと伺いました。

145 また、活動拡大に向けて、コミュニティ・スクールの学校運営協議会がうまく機能するように取
146 り組んでいる様子でした。まず委員が主体的に学校運営を考える場にするため、会長を校長から外
147 部の方に交代しています。

148 また、教員が協議会について、委員からの指示で負担が増えることを警戒していたため、理解を
149 深めるため、ワークショップを行ったとのことでした。教員と委員が直接議論できる場として、全
150 体会よりも平場である部会を重視したいと伺いました。

151 最後に（４）その他について、事例６は地域学校協働活動推進員の配置を終了した学校です。こ
152 ちらは既存の近隣中学校区の幼・小・中と地元の連携に、高校が参加する形で事業を開始しました。

153 避難所初動対応マニュアルを連携して作成したほか、学校の専門技術を近隣地区で生かす機会を
154 得られたとあります。

155 経緯として、地域学校協働活動推進員は高校のPTA役員の中から依頼しています。地域学校協
156 働活動推進員が中学校区の会議に出席して連携したとのことです。この事業開始前から高校と地域
157 の連携事業は行われており、委嘱後も地域学校協働活動推進員を介さず引き続き連携していました。
158 令和2～3年はコロナ禍で中学校区の連携事業は出来ず、令和3年末で、次の地域学校協働活動推
159 進員が見つからずに委嘱終了しています。なお、高校と地域の連携事業は引き続き実施していると
160 のことでした。

161 令和3年ごろのヒアリングでは、課題として地域学校協働活動推進員が地域の依頼を学校に伝え
162 ることが主たる業務になり、片務的な形が負担感に繋がった。地域学校協働活動推進員の存在や活
163 動が校内に共有されず、立場が浮いてしまったことが挙げられています。

164 以上、6つの事例を調査いたしました。続いて、前回審議と追加調査の内容から、課題について
165 資料1にまとめたので御説明します。

166 前回の審議で挙げた課題とその対応案、追加調査結果から、大きく2つにまとめています。

167 まず、活動の意義への理解が不足していることは、前回事務局から挙げた課題ですが、たとえば、
168 数値目標付きのビジョンや人材公募時のスペシフィックーションの明示、コーディネートの資質があ
169 る職員の評価や育成をすることや、行政が熱意をもって意義を伝えることについて、御意見をいた
170 だいています。

171 事例から確認できた現状として、まず学校側の活動への理解について、教員の負担感について複
172 数校で言及されました。

173 これに対して、学校運営協議会の部会でワークショップを行い委員と教員の相互理解を進めた例
174 や、活動後に生徒の成長、教育効果が認識されて労力に見合う取組であることと認められた例があ
175 りました。

176 他に、校長の異動やコロナ禍の活動休止で、活動理念の引継ぎが出来ず、当初の課題意識と活動
177 内容がずれてしまった例がありました。

178 次に、地域側の活動への理解について、地域側は、県立高校との活動がイメージしにくいとして、
179 校長自らが地域に出向いて連携を投げかけた例がありました。

180 誰にどのような意義を伝えるかという点では、地域学校協働活動推進員の増員や、地域学校協働
181 活動そのものの充実ではなく、地域の中での教育活動の効果や、学校が地域コミュニティの一員と
182 なる意義を教員・地域住民それぞれに周知することが重要視されているようでした。

183 2つめの課題として(2)県立学校と地域の結びつきが弱く、広がりを作ることができないこと
184 を事務局で挙げており、活動の積み重ねが繋がりを育むのではないかという御意見をいただい
185 ています。

186 また、繋がりが薄いことから、コーディネーター役を見つけられないことも審議の中で課題とさ
187 れ、こちらについてはコーディネーター役の養成や、適する人材の案など様々な御意見をいただ
188 いております。

189 事例から確認できた現状として、連携する「地域」を広く定義する例が見られました。進学校や
190 特別支援学校などの特色ある学校は、近隣のエリアのコミュニティだけでなくテーマを共有するコ

191 ミュニティと連携する考え方をもっていました。

192 また、実際に各事例で地域人材にどのような経緯で依頼したかをまとめています。校長の人脈、
193 町のサポートセンターの紹介、他の制度との兼任依頼や、教員の人脈、OBへの依頼、生徒の活動
194 中にお声がかかるケース、PTAや学校運営協議会から繋がるケースなどがありました。

195 一方、繋がりが切れてしまう例もあり、地域に顔を出していた教員の異動により、連携が途絶え
196 たことがあるということでした。

197 県立学校と地域の繋がり方として、学校と地域とが連携した取組の初期段階においては、教員が
198 個人の人脈や学校運営協議会等の既存の繋がりを使って地域人材と繋がり、その繋がりが新たな繋
199 がりを生み、発展するケースが見られました。一方で、教員の異動等によって核となる人物の繋が
200 りが途切れ、連携そのものが途絶えたり、活動当初の理念が薄れたりしてしまう例も確認できまし
201 た。

202 以上のように大きく2つにまとめた課題について、本日の審議では、解決に向けた方策を中心に
203 議論をお願いいたします。次回、来年度の第4回審議会では、挙げられた方策について重要なもの
204 や、留意点など、要点となることをまとめていきたいと考えております。

205 最後に、方策を御審議いただく御参考に、地域学校協働活動の推進に関する県の主な取組につい
206 て御紹介します。

207 ボランティア等で学校を支えたい個人や、地域の力を教育活動に活かしたい学校に向けた啓発資
208 料として、平成30年に生涯学習課が作成した『地域学校協働ボランティアハンドブック』がありま
209 す。主に小中学校の活動を想定して作成されているので、次回改訂時には県立高校での活動もより
210 多く取り扱う内容更新を予定しています。

211 また、生涯学習指導者研修「学校と地域との協働推進コース」を実施しています。「学校を核と
212 した地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する方法や地域と
213 学校と人を繋げる方法等を理解し、実践する力を身につけることや、参加者同士のネットワークづ
214 くりの一助とすることを目的とした研修です。

215 今年度は講義・事例発表・協議（情報交換）等を回ごとに組み合わせて全4回開催しています。
216 事務局から説明は以上です。

217 ○小池会長

218 どうもありがとうございました。

219 第16期の生涯学習審議会は、最後に建議や答申を書き上げる形ではなく、審議会の中で議論され
220 た課題と、その解決の方策を会議の中で整理し、県教育委員会に示す形で進めています。

221 資料1に、前回までの審議会で皆様から挙げられた御意見が項目ごとにまとめてあるので、これ
222 をもう少し積み上げていくことが、今日の審議になります。

223 前回の審議で挙げた課題としては、この活動の意義の理解が、不足していることがあります。
224 学校や地域へ、地域学校協働活動事業とは何なのかということ、いかに啓発していくのか、浸透
225 させていくのかが、大きな課題だということです。

226 その時に、行政のリーダーシップが必要という御意見もありました。

227 そして事例から確認できた現状として、地域学校協働活動が制度としてあるものの、学校側とし
228 ては、教員が地域連携に関して、またもや仕事が増えるものという形で身構えている実態があるの

229 ではないかということです。

230 そして、校長が必死でこれを牽引して、人を見つけてきて立ち上げるところから、動いているの
231 ではないかという御意見があったかと思います。

232 一方、初めは現場の教員の負担感や不満があっても、連携活動が進んで、生徒が成長しているな
233 ど、学校にとってメリットがあることが分かってくると、活動が回っていくことも確認できたとい
234 うことです。

235 そして、一つのネックとして、県立高校と地域が活動を一緒にやっていくイメージが、地域側に
236 にとって繋がりにくいことも挙げられました。これに対して、校長が、町の集会に出向いたり、知人
237 に声をかけたりして、学校が地域のコミュニティの一員になる例がありました。

238 そこを掘り起こしていく学校と、していない学校ということで、教員、校長の熱意が、県立学校
239 側にあるかが、推進の鍵になっているという御意見があったかと思います。

240 県立学校と地域の結びつきが弱く、広がりを作ることができないことから、コーディネーター役
241 を見つけられないことも課題です。

242 生涯学習課が、地域と学校の橋渡しをすることに力を注いでいくべきなのではないかというこ
243 が、御意見としてはありました。さらに、コーディネーター役は元校長、社会教育主事の有資格者、
244 P T A役員経験者などから掘り起こすことが必要ではないか、という提案もありました。

245 そして、今日は参考資料2の地域学校協働ボランティアハンドブックが配付されています。この
246 中の記述で、コーディネーターの役割が本当にイメージできるのか、とも思います。

247 17ページには、コーディネーターの候補者となりうる人に、ボランティア、P T A関係者と経験
248 者、退職教職員、自治会、青年会など地域関係団体の関係者、地域や学校の特色や事情を理解する
249 企業、N P O団体などの関係者、社会教育主事の有資格者などが挙がっています。

250 活動内容の説明は、「コーディネーターは、学校のねらいやボランティアの思いを受けとめ、「連
251 携・協働」という関係の中で一緒に活動をつくり、調整をする役割を担っています。」「コーデ
252 ーターがいることで、ボランティアや教職員の戸惑いが少なくなり、活動が円滑になります。そ
253 の結果、学校でのボランティア活動や教育活動が、さらに広がりを持ち、活気のある充実したもの
254 になります。」とあります。右側の18ページにフローチャートがあり、活動の流れが書いてありま
255 す。

256 地域学校協働活動推進員やコーディネーターの位置づけについて、2ページのフローチャートで
257 は、地域と学校の下に地域学校協働活動推進員と地域コーディネーターの枠があり、「地域と学校
258 の思いが繋がり、一緒に活動できるようにしたい。」とあります。

259 この点が理解してもらえているのか、また、コーディネーター役を見つけることができないとい
260 う課題です。コーディネーターを養成することを、生涯学習課でやってもらえないだろうかという
261 御意見がありました。

262 資料1の2ページに戻ります。事例から確認できた現状ですが、これはうまくいく要素として考
263 えられます。

264 連携する地域を広く定義したらどうか。地元を最重要視しているわけではないが、O Bや近隣の
265 研究施設からなる、テーマコミュニティが生徒の探究学習を助け課題を解決する人材を育てると考
266 えているということでした。

267 探究学習にはテーマがあります。地域にとらわれなくても、スーパーサイエンスハイスクールな
268 どでは、テーマを探究するために連携してくれるパートナーがいらないか、近くの人に限らずに考え
269 る発想を持っているということです。

270 また、各事例での学校外の人材への依頼経緯は、校長の人脈、教員の人脈、OBなどが出てきて
271 います。そして近隣在住の支援学校の保護者への依頼ということが書かれています。

272 以上が、これまでの会議の中で、皆さんから御意見が上がったことでした。

273 さらに、今回はこのお話を、県立学校と地域を、より一層結びつけていくために、何をどうして
274 いくかという議題に結び付けて、事務局が具体的な取組の事例を御紹介くださっています。それを
275 踏まえて、皆さんから御意見を賜っていききたいなと思います。各事例について質問があれば、提出
276 いただいて共有したいと思います。

277 私から最初に御質問します。事例1について、インターンシップ、ボランティア事業などを、学
278 校側が進学率向上を目指して必修化した、という点を詳しく教えてください。学校側がこれに取り
279 組むメリットがあるということですね。

280 ○事務局

281 事例1では、インターンシップやボランティアの活動を1単位分として、導入時に全員必修とし
282 ています。活動を通して、生徒が地域課題を認識し、それを解決したい、解決するためには、この
283 分野を深く学ぶ必要がある、という形で、自分の体験から学習や進学への意欲が芽生えていくこと
284 をメリットとしていました。

285 ○小池会長

286 面接対策という記述も資料にあります。今、大学入試も、総合型選抜が増えています。ペーパー
287 テストではなく、受験者がどのような問題に関心を持っているか、どういう勉強や活動をしてき
288 たか、書類に書かせることがあります。

289 生徒が地域課題に取り組んで活動して、大学でもそれを深めていくという意欲に繋がるのが、
290 この事例の背景にもあるかと思います。

291 そしてインターンシップやボランティアのサービス・ラーニング、つまり、地域に出かけていっ
292 て自分たちができることを行使した結果を、自分の学びにフィードバックする形は、地域も助かり、
293 生徒の学びも深化させるWin-Winの関係にあたります。

294 学校が連携活動を推進して、学校の中ではできない学びを地域に託し、地域にも貢献できるよう
295 な、太いパイプを作ることが一つの切り口になると考えます。

296 ○石川委員

297 今回の「県立学校」に限定したテーマは重要なので、地域学校協働ボランティアハンドブックは
298 小中学校と分けるべきだと思います。

299 先ほどのお話の通り、高校生には人と違った経験や知識を得たいという気持ちがあります。自分
300 の暮らした学校の地域課題への関心が、面接で非常に有効な発言になることもあるでしょう。先ほ
301 どの事例3の活動で得られるような専門的な知識も、他の高校とは違う、自校の生徒の言葉になる
302 可能性もあります。

303 能登半島地震でも、地域の繋がりや意義は明らかに感じます。普段の学校行事から地域の人に来
304 てもらって、繋がりを持つことで、いざというときにも繋がるべきだと思います。

305 一方で、それと今回の地域学校協働活動とは、意義をもう少し考えていく方が建設的で、このハ
306 ンドブックも、小中学校とは分けた方が、先生も地域の方も、意義を見だしやすいのではないかと
307 思います。

308 ○小池会長

309 はい、ありがとうございます。他に何か確認をしておきたいことや御意見はいかがでしょうか。

310 ○伊藤委員

311 確認ですが、県立高校で、制度としての地域学校協働活動の本部を置いているのは、県内全部で
312 何校ですか。

313 ○事務局

314 県立高校で2校、特別支援学校で1校、計3校です。

315 ○伊藤委員

316 ありがとうございます。ここでは、制度としての普及を目指す方向での議論が求められているの
317 か、それとも、制度とは関わりなく、高校と地域の連携を考える議論が求められるのか、確認させ
318 てください。

319 ○事務局

320 後者を想定しています。制度に関わらず、学校と地域の連携を積極的に進められる方策について、
321 学校と地域を結び付けられるように御意見いただきたいです。

322 ○伊藤委員

323 ありがとうございます。

324 ○小池会長

325 大きな制度に対しての政策提言でなくてもいいということです。具体的な一つ一つを積み上げて
326 いくことで、連携を推進していく方策を提言すればいいということです。他に何か御質問はありま
327 すか。

328 ○野内委員

329 丁寧な御説明ありがとうございます。事例4に、「特別支援学校は地域との密着性が弱い、薄い」
330 とあります。

331 こちらは、1940年代からあった児童養護施設の跡地に、令和2年4月開校とあります。児童養護
332 施設と特別支援学校は性質が異なるため、課題はあるかとは思いますが、また、令和2年ということで、
333 非常に新しい学校ですので、まだまだ立ち上げなど大変だとは思いますが。

334 私は昨年、瀬谷支援学校の周年のお祭りを視察しました。50周年を迎えられているところで、非
335 常に温かい雰囲気の中に、地域との関わりがありました。

336 県内にそうした特別支援学校もありますが、横の連携で学び合うことは行われていないのでしょ
337 うか。行われている場合、どれぐらいの頻度で行われているのか、お聞かせください。

338 ○小池会長

339 回答までにお話したいのですが、事例4は児童養護施設の跡地に特別支援学校ができているとの
340 ことでした。

341 私の大学でも、学生たちが実習で、児童養護施設実習に行きます。児童養護施設は、親と一緒に
342 生活できない子どもたちの生活の場として、スタッフが非常に献身的に働きかけて子どもたちを家

343 族のように育てていく場所です。

344 そのような特殊性を持つ施設であるので、地域の人たちに学校を開いて、人の交流で子どもたち
345 を支えていくことをしています。施設の内だけに留まらず、そこから学校にも行き、地域の人た
346 ちにも入ってきてもらって、子ども達が家族的な交わりを持つことができた児童養護施設があつて、
347 その跡地にこの特別支援学校ができています。

348 特別支援学校の子どもたちはバスなどで広域から集まりますが、家と学校しか行き場所がないの
349 ではなく、地域の人たちが学校に来て交流して、温かい交わりの中で子どもたちが育てられていく
350 ように、相当いろいろなことを開校時から考えていらっしゃるようです。

351 また、地域も伝統的な歴史の積み重ねの中で、協力することを形づくってきたのではないかと推
352 察します。その掘り起こしが地域の中にあれば、県立学校であろうとも、連携が可能である場もあ
353 るということですね。

354 ○事務局

355 この学校の開校当初は、「そこに何ができたのだろう」と地域の方も思ったそうです。まず、特
356 別支援学校ができたことを知っていただくために、学校の一角、外に面した部分の花壇整備を始め
357 たそうです。子どもたちが花を育てているところを、地域の方々が通って、声をかけるところから
358 始まったと伺っています。

359 その後、学校に対して、地域からひな人形を送られて、学校ができたことが認識されて、地域と
360 の繋がりが、広がっていったと伺っています。学校同士の集まりがどれぐらいの頻度で行われてい
361 るかは今すぐには確かな情報がないのですが、連携が広がり近隣大学等とも協力していると伺って
362 います。

363 ○野内委員

364 御説明ありがとうございました。開校にあたって、地域との連携を進めたいということでしたら、
365 地域の自治会長の方がキーマンかと思います。地域を担う方々は自治会から輩出している部分もあ
366 ります。そうした方々に開校時の早い段階から、お越しいただいて、肩ひじを張らない、お茶を飲
367 むようなコミュニケーションを取って、皆さんに理解していただくような場を作っていくことが一
368 つの方法かと思いました。

369 ○小池会長

370 どうもありがとうございました。では、どなたからでも結構ですので、御意見を述べていただく
371 時間にしていきたいと思います。いかがでしょうか。

372 ○夏井委員

373 私は人材育成が大事だと感じております。事例でもコーディネーター、地域学校協働活動推進員
374 の方々や校長、地域の方が尽力されているのですが、それが継続的に続くのか、難しい部分もある
375 と感じました。

376 この地域学校協働推進事業に限らず、活動を続けていく上には、次の世代の育成が必要で、その
377 継続性がとても大事だと感じています。それぞれが自分から進んでやることも難しいかと思うので、
378 学校において、例えば初任者研修、中堅職員研修で場を設けて、必ず地域学校協働活動というもの
379 を知っていただくことも必要かと思います。

380 地域の方々に対しては、県で研修の機会等もあるかと思いますが、より地域の身近な、例えば公

381 民館の研修の中に、その地域人材対象の研修を設けていただいて、地域活動のことを知っていただ
382 くことを常に継続して行うことも必要ではないかと感じました。

383 そして、高校生にも、自主的に参加していただくようなことも必要かと思えます。きっかけさえ
384 提供すれば、高校生が主体的に、地域に出て行くことも可能だと思えます。

385 この事業の中でも、地域の方を呼んで、きっかけづくりになるようなことを行うことが、事業を
386 推進していく上でも大変重要になると思いました。

387 ○小池委員

388 この地域学校協働活動推進員は教育委員会から委嘱されますが、研修体制も充実させるべきだろ
389 うということです。研修主催の責任者は、地域の地方自治体の教育委員会になりますか。それとも
390 学校になるのでしょうか。

391 ○事務局

392 地域学校協働活動推進員は、市町村立の小中学校では市町村教育委員会、県立学校では県教育委
393 員会で委嘱しております。

394 研修は教育委員会が主体で行います。研修では学ぶだけではなく、他の地域、学区のコーディネ
395 ーター、地域学校協働活動推進員と情報交換する機会を設けています。

396 県の生涯学習指導者研修では、学校と地域との協働推進コースを実施しており、各市町村の地域
397 学校協働活動推進員、コーディネーター、また、夏休み期間中に行いますので、管理職の方が多い
398 ですが、教員の参加も若干ございます。

399 ○小池委員

400 今の御説明の意見交換会や交流は大事だと思えます。生涯学習指導者研修では具体的に何をして
401 いらっしゃると思いますか。

402 ○事務局

403 年4回ございまして、大きな枠としては、事例発表をしていただいて、そのあと、講師の方から、
404 先ほどお話のあったような人材の育成、発掘、また、地域教育資源を活用した取組などについてお
405 話をいただきます。最後はグループ協議をして、それぞれの参加者の立場から、どのような取組を
406 しているのか、情報交換などをしております。

407 ○夏井委員

408 この事業とは別の事業ですが、川崎市では、地域の寺子屋先生という事業があり、寺子屋先生の
409 養成講座を、教育委員会主催で、各公民館が実施しています。コーディネーター養成講座もあり、
410 年に1回交流会を開きます。地域の先生、コーディネーター、一般の方が集まって、交流をしながら
411 事例発表を行う交流会です。

412 身近な地域で、そのような会があると効果的かと思えます。県の主催なので、大変難しいところ
413 ですが、地域には小中学校もありますので、高校も交えた形で何かできないかと思えます。

414 ○小池会長

415 県立学校だからといって県の関係者ばかり呼んでも、その地域には関係ないという話になってしま
416 うので、地域にある小中学校、そしてそこにおける地域学校協働活動推進員やコーディネーター
417 を集めて、県の方で研修会を開催した方が、本当に身近な繋がりが得られるのではないかと、という
418 御意見でした。稲川委員、お願いします。

419 ○稲川委員

420 コーディネーターについてお話ししたいと思います。資料には、コーディネーターを探すことが
421 大変だということと、特定の教員が尽力して探したことで、属人的な形になってしまうことが挙げ
422 られています。

423 また、事例にもありましたが、問題を学校と共有する、連絡をすることは地域学校協働活動推進
424 員の方にとっても、大変なことかと思えます。

425 そこで、コーディネーターは、例えば、行政センターや公民館で担っていただければいかがでし
426 ょうか。要するに、一種のお仕事と言っては過言かもしれませんが、責任を持ってコーディネート
427 していける人が必要なのではないかと考えております。

428 一昨年、山梨で行われました関東甲信越静社会教育研究大会で紹介された館林市の事例は、小中
429 学校との協働活動でしたが、コーディネートを公民館長が担う形になっていました。責任を持って、
430 しっかり地域のコーディネートをしていく方がいらっしゃるということです。

431 例えば、地域学校協働活動推進員の方が、何か問題を相談する時も、問題は地域で起こっている
432 ので、その地域の行政センターや公民館に相談することが多いと思います。そこに県立高校を巻き
433 込んで、一緒に課題を解決していける仕組みを作るなら、コーディネーターの責任を、重要視する
434 必要があるのではないかと思います。

435 ○小池会長

436 充て職で肩書きがある人たちだけを集めて研修会をやっても、なかなか地域の実態まで結びつか
437 ないので、地域学校協働活動推進員だけではなく、地域で汗かいて活動をするコーディネーターも
438 一緒に、小中高で集まった研修会を県で開けないかということでした。

439 ○稲川委員

440 また、コーディネーターの責任について、物事を解決していくこと、そのために、どことどこを
441 結びつけるか、連携を調整することを、ボランティア的な形でやるには非常に負担もかかって参り
442 ます。

443 事例にもありましたが、進めていくのが大変になる原因としては、ボランティアだけに負わせて
444 しまっていることから、続いていかないのではないかと、私は考えております。

445 ある程度責任感を持って、しっかりその地域をコーディネートしていく形が必要なのではないかと
446 思いまして、できれば、行政センターや公民館の職員の方が、やっていただければありがたいと
447 考えております。

448 ○小池会長

449 地域学校協働活動推進員は教育委員会で委嘱ですが、地域コーディネーターはどなたが委嘱を決
450 められるのでしょうか。

451 ○事務局

452 地域コーディネーターは特に委嘱の形はとらないものです。

453 ○小池会長

454 では、行政的な事例は出ないのですね。それをもう少しちゃんとした責任のある形で担う、逆に
455 言うと、社会的承認をそこに付与をできるようなシステムをつくれないうのが稲川委員の御
456 意見でした。

457 ○稲川委員

458 はい。藤沢市の社会教育委員会議でも、コーディネーターの役割は実は一番重要ではないかと、
459 考え始めております。

460 ○小池委員

461 ありがとうございます。八巻委員、どうぞ。

462 ○八巻委員

463 私は前回の審議で、この活動における行政のリーダーシップの大切さと、その担い手の大切さを
464 申し上げました。行政のリーダーシップの御努力は資料等で理解できましたので、今回は、私自身
465 の県立高等学校長としての経験と今回の事例から知った現状を踏まえて、この活動の担い手の確保
466 について、3点、申し上げます。

467 まず1つめ、地域学校協働活動という、冒頭に「地域」と入っていることから、そのスタッフ
468 は地域の方と考えがちです。事例にあるように、その活動に沿ったスタッフは内容に沿った人材を
469 探すのが本来と思います。

470 進学重点校の探究学習では、様々なテーマが考えられます。私が入組んだ探究学習のテーマで
471 「日本経済と地域の豊かさ」について、私が勤務した高校は地方にありましたので、高校生の目標
472 となる東京の上位大学の学生と議論する場を設定しました。非常に充実した活動になりました。

473 今、日本の名目国内総生産を見ると、OECD加盟国の中でも、順番が下がっています。1994年
474 は2位でしたが、2010年は3位、2023年は4位と予測されています。

475 この課題解決の担い手は高校生だと思います。彼らが、地域と国、世界を見て、考えていく、そ
476 うしたときに、そのスタッフを地域限定ではなく、より幅広くすべきということが1つめです。

477 2つめとして、この活動の学校側の担い手は非常に大事で、選ぶのに苦労します。私自身は、企
478 業から県立高校に勤めた時、公教育特有の文化を随分感じました。資料にもありますが、教員は新
479 しい仕事に負担感を感じるということです。慣れないせいだと思いますが、新しい仕事を見て、「難
480 しい、大変だ」と言う人の比率が、企業の企画部門のスタッフと比べて、教員は多いと思います。

481 「チャレンジ」というと、「挑戦」と訳しますが、辞書には「やりがい」という意味もあります。
482 意識の強い層は、「チャレンジ」を「やりがいのあること」として取りかかると思います。その過
483 程で自分が成長していくスタッフ、自ら考えて主体的に行動する人材が学校側の担い手として必要
484 です。

485 そのための研修が大事です。教員研修はどうしても均等で幅広になりがちです。しかし、必要な
486 人材はそんなに多くはありませんので、地域活動の担い手として、資質のある教員や公民館等のス
487 タッフに研修資源を集中すべきです。例えば、海外の地域協働活動を見るのもいいと思います。フ
488 ランスも積極的ですので、面白い事例がたくさんあります。ドイツもそうです。ヨーロッパなどの
489 実践活動の見学など、資源を集中して育てることが大切です。

490 最後に3つめとして、最近の海外在留邦人数の統計を見ますと、永住権を持つ海外移住者が2023
491 年に57万人、前年より1.7万人増えています。そうした主体的に行動できる人材を増やす地域学校
492 協働活動のスタッフは、学校と地域だけに限らないで、グローバル企業の社員から採用してもよろ
493 しいと思います。

494 彼らは英語によるコミュニケーション力のある人材も多く、また、他の教科でも相応の見識を持

495 つ方がいます。企業人から教育公務員として採用し、教育活動全体に組み込むことも一つの方法と
496 思います。以上3点です。

497 ○小池会長

498 わかりました。まず一つは地域学校協働活動の推進の連携先は、必ずしも地域住民である必要は
499 なく、広く専門性を持つ人を開拓していくべきだという御意見でした。

500 もう一つは教員の研修、新しい活動に負担感がある先生たちの思いを変えていくためには、研修
501 にお金を使って、少し楽しみも付与して、やる気のある特定の人に集中した育成が効果的であると
502 いうことでした。

503 ○八巻委員

504 この活動は自己肯定感が高く、チャレンジできる学校側の担い手が必要です。「自分是可以る」
505 と思う担い手でないと、その背中を見る子どもたちも喜びを感じないと思います。

506 ○小池委員

507 教員免許を持っていることが大前提なので、同じような人が集まっていますが、広く人材を登用
508 する提案でした。制度の大きな改革になりますね。石川委員、よろしく願いいたします。

509 ○石川委員

510 負担感について、チャレンジングな人材であれば、そんな事は思わないだろうということですね。
511 企業人が転職に来ないというのは、教員の給料もそうでしょうし、もしかしたら平等すぎる制度も
512 含めて原因があるかもしれない。大きな議論なっていますが、おっしゃることは本当にそうだと思
513 います。

514 ○小池会長

515 現場にいると企業から来る先生もいます。すごくやり手で、ずっと先生だけやってきた環境から
516 すると、改革の牽引力が目立ち過ぎてしまうことも、一方においてあります。そういう人材を登用
517 することと、学校という風土が持つ伝統的な価値観や、そこにおける教師像を、いかに新しいもの
518 にしていけるかが大事かもしれません。学校現場からは、橋本委員はいかがですか。

519 ○橋本委員

520 先ほど、生徒が主体的に地域に出て行くきっかけづくりのお話がありました。事例3では顧問の
521 先生が頑張っていらっしゃったようですが、高校生なら、本当にきっかけがあれば、例えば部活で
522 始めることでスタートさえすれば、子どもたちの中だけでも運営できるのではないかと、夢が広が
523 った次第です。

524 特に、今の子どもたちは社会に貢献したい気持ちが、とても強くなっているように思います。そ
525 のきっかけを与えられたら、子どもたち自身が、進めていくことができるのではという、明るい気
526 持ちになったのが一点です。

527 それから、もう一つ、先ほど稲川委員がおっしゃったことが、本校でも話題になっています。コ
528 ーディネーターが、すごく大変で重要な役割を担ってくださっているのに、ボランティアでいいの
529 でしょうかと、教員が言っていました。

530 とても大事なことをしていただいている認識があるのなら、ボランティアではなく、それなりの
531 責任と甲斐があるべきだと思います。ボランティアだけでも十分に甲斐があると思ってくださる方
532 が今の担い手ではあるのですが、お願いしている職員側から疑問の声が出ています。

533 また、学校外の人材の依頼に、OBへの依頼がありました。私も県立高校の出身ですが、先日届
534 いた同窓会からのお手紙を見ていて、同窓生の活躍が紹介されている中で、こういう情報発信があ
535 るなら、高校の活動と地域を繋ぐことが、同窓会の中でもできそうだと思いますので、一言お
536 話させていただきました。

537 ○小池会長

538 高校を出て、その地域に生活しているOBで愛校精神が高い方は、特に伝統校に多いです。そう
539 いう方たちに、学校と地域を結ぶコア、ハブとして、活躍してもらえないか、可能性としてはあり
540 ます。そういう活動を、学校の同窓会誌に載せるだけではなく、県のホームページに載せてPRす
541 ることもできるかと思えます。

542 また、地域コーディネーターの位置付けについて、無償の善意による労働力の活用、供給として
543 使う現状は、このままでいいのだろうか。これは非常に重要な御指摘として受けとめていただき
544 たいです。どうもありがとうございます。

545 ○石川委員

546 三浦市にも地域課題が多くあります。ラクロスの競技場があるのですが、それについて、先日面
547 接に来た高校生が地域貢献として、この三浦市をどうにかしたいという課題を持ってきてくれまし
548 た。このような地域の課題など、生徒の興味があることを、学校の先生や公民館がいかに拾って、
549 学びに結びつけるかということが大事だと思っています。

550 そういった意味で、教員の方々のモチベーションをいかに上げていけるか。根本的な働き方改革
551 も重要でしょうし、子どもたちの学びも学校だけで終わらせずに、学校と社会をいかに結びつける
552 かが課題です。行政の方がそれをしっかりと結びつけるためには、現状の取組では、残念ながら足
553 りないのではないかと思いますので、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいです。

554 ○小池会長

555 高校で探究の時間が必修化したことで、昔と違って、受験のために暗記する知識だけの獲得から、
556 自分たちがサステナブルな社会を作っていくために何が必要なのか、課題をめぐって解決する深掘
557 り型、問題解決型の思考を持った生徒が増えてきています。

558 先ほど橋本委員もおっしゃってくださったように、高校生は主体的に地域の中に出ていくことが
559 できる人たちではないかということです。彼らの思いを、地域住民や、NPO、企業がどのように
560 受けとめて力を貸すか、大人社会の側が、連携する仕組みをつくれるかが課題です。地域学校協働
561 活動ということに関係する人たちだけではなく、社会やPTA全体の意識改革、大人社会の責任に
562 ついて伝える研修をするのも大事だと思います。

563 教育委員会として、「今の若い人たちが、問題解決型、探究型学習によって変わってきている。
564 地域に出かけて行って、いろいろやりたい思いが高まっている時代に、私たちは何ができるか」と
565 というテーマで研修してはいかがでしょうか。社会教育施設や、教員の研修会、また地域のPTA、
566 そういったところの研修会でこういうテーマを扱ってもらうことが大事かと、今、御意見を承って
567 感じた次第です。

568 ○山崎委員

569 基本的なことですが、この活動は、生徒が成長するためには、皆で何をしたらいいかというのが
570 大きな目的で、そのために、学校の力も必要ですし、コーディネーターの調整も必要ですし、それ

571 から、企業や地域の力が必要だという捉え方でいいのでしょうか。

572 ○事務局

573 子どもたちのために、学校だけではなく、地域の力、または企業等の力を使って、様々な目で子
574 どもたちを育てていきたいと思いますという目的です。それが、子どもたちが地域に出てきたり、地域の
575 方々が学校に来て、授業して下さったりする活動に結びついているというものです。また、その
576 ことが地域の活性化にも繋がると考えています。

577 ○山崎委員

578 どこが発信するかによって、コーディネーターの方は、行動の目的を理解できるのではないかと
579 思います。

580 もし発信するところが学校であれば、自分たちの学校はこういう年度目標を立てて、このために
581 はこういう力が必要だと発信されると思います。それに対して、コーディネーターの方が動いて、
582 地域の人材や企業を学校に繋ぐということが、ゆくゆく子どもたちの成長に繋がると分かると思
583 います。どこが発信するかを合わせて考えていかないと、コーディネーターの方には、余りにも大き
584 く、広く、掴みどころがない活動に思えてしまうと考えました。

585 また、追加の資料でいただいた事例は、背景がそれぞれ大きく異なる様子でした。

586 この事例の中の一つで、実際に関わった人に聞いたことがあるのですが、生徒のモチベーション
587 を上げるのが大変だったそうです。一方で、最先端をいくところで勉強をして、それが将来に繋が
588 っていくという学校もあり、学校によって背景が違うので、分けて考えていくべきではないかとも
589 感じました。

590 その学校が何を求めて子どもたちを導いていくか、子どもたちは、何を発見して、それが何に繋
591 がっていくかを具体的にわかりやすくしないと、議論が掴めないと感じました。

592 もう一つ、私はこのハンドブックの中に出ているボランティアをしています。その学校の校長に
593 お話を伺ったのですが、やりたいことはたくさんあり、地域の力を活用したいところはたくさんあ
594 るということでした。また、企業は協力的である一方、地域と繋がるのが難しいということをおっ
595 しゃっていました。

596 理由としては、地域の公民館長や自治会長が、短いところでは一年ほどで変わってしまうため、
597 繋がりを作るまでに時間がかかる、繋がりができたと思うと違う人と交代してしまっている現状が
598 あるためとおっしゃっていました。

599 校長が、なかなかその人材を探すのに大変だということと、地域の事情としても、今は子ども会
600 や老人会もなくなっています。そのことが子どもたちの環境を考えたときに、決してプラスには進
601 まないことかと思えます。世代間の交流がだんだんなくなってって、違った年代の人と言葉を交
602 わすことが少なく、いろいろな年代の人と話すチャンスもなくなっていると思います。

603 そういうところに、もう少し地域の力が発揮できればいいと思います。子どもたちの成長と地域
604 のあり方は、生涯学習の課題として、扱わなければいけないと感じました。

605 ○小池会長

606 子どもたちが育つ場として、家庭と学校が非常に大きな役割を担う中で、地域全体、その住民
607 と企業など、社会の中にある教育的な資源を使って子どもの育ちを支える仕組みを作るために地域
608 学校協働活動が出てきています。

609 そのため、主体はどこかと言えば学校だと思います。しかし、学校だけが子どもを育てているわ
610 けではないので、地域学校協働活動を進めていきたい。ただ、なかなか進まないの、進めるには
611 何が必要か、という大きな話をしています。それも、小中学校の地域密着型の公立学校と地域の連
612 携ではなく、県立学校の連携ですので、義務教育ではない、そして地縁的な子どもたちが来ている
613 わけではないところで、どのような連携ができますか、ということをお話しています。

614 具体的な事例として、一生懸命やっている学校を調べてくださったので、特別支援学校や、普通
615 教育を行っている学校がありました。統一して調査したわけではなく、先進事例でうまくいってい
616 るところをピックアップしてくださったので、背景が違う学校が出てきています。マクロ的な公約
617 数は出てこないの、今回は個々の学校の事例から見えてくることを核として、委員の皆様から御
618 提言をいただきたいと思います。

619 ○山崎委員

620 それぞれの学校の個性や持つテーマが違うので、コーディネーターの方もそれぞれ大変だと思
621 います。学校がきちんと、自分たちの問題を踏まえて、どのようなことを一緒にやって、どのよう
622 より良くするか、その発信の仕方を捉えていないといけないと思います。

623 コーディネーターの方の研修も大事ですけれども、今は話し合いが少ないと思います。校長にイ
624 ンタビューして一番思ったのは、ボランティアを募るのも、父母の方たちの生活環境を考えると絶
625 対に無理は言えない。先生にも同じようなことが言えるということで、難しいところだと思います。
626 ところが、企業だと、仕事の一つとしてやってもらえるので、本当にウェルカムで、いろいろなど
627 ころに、繋がりやすいということをお伺いました。

628 ○小池会長

629 その通りです。今まで御提言がいろいろありましたが、それを少し集約していきたいというのが
630 今回の目的です。

631 本当は学校の特色を踏まえて、具体的な話を学校とお話して聞いていくことも、あって然るべき
632 だと思いますが、それをやっていくことがこの会議では難しいので、委員の皆様の経験と、意見を
633 踏まえて、調整していきたいと思っている次第です。

634 ○小森委員

635 私からは、また追加調査のお願いになってしまうかもしれません。地域学校協働活動推進員の委
636 嘱を終了した例というところに、本当にいいことが書いてありました。幼小中の連携に高校が参加
637 する形というところと、また、推進員を派遣する前から、高校と地域の連携事業が行われていたと
638 のことです。そう言った、我々からすると、図らずもやっていたいた事業について、もう少し
639 し具体的に教えていただきたいです。この委嘱を終了してしまったところは、再開は難しいのでし
640 ょうか。

641 さらに、連携事業の中で、各学校の学力差や地域差に応じて、求めるコーディネーターや地域
642 学校協働活動推進員の力量を当てはめていくことは本当に大変なことだと思います。

643 求める地域学校協働活動推進員のビジョンについて、こういった学校にはこういった方をという
644 例を明確するように、今後話が進んでいくのだと思いますが、具体的に明確に調査をいただくと
645 助かります。

646 今回、地域学校協働活動推進員がいなくても取組を進める学校があるというところまでは理解し

647 ました。実際に簡単なことから連携を進めて、小中学校にいらっしゃる地域のコーディネーターの
648 方や、市と県それぞれが委嘱をしている方で連携ができれば、地域の方も効率よく考えられるかと
649 思います。共有してできる事業があれば、教えていただければと思います。よろしく願いいたし
650 ます。

651 ○小池会長

652 事例6について、詳細なその後がわかればということで、また情報提供を引き続きお願いできれ
653 ばという御意見でございました。それでは伊藤委員、お願いします。

654 ○伊藤委員

655 事例1で面接対策という言葉がありました。実際、大学の面接では、地域活動に取り組んだこと
656 を話す生徒は少なくないです。ですが、その内容がパターン化しているというか、よく練られたプ
657 ログラムをこなした形で、そこに生徒自身の自発性をみてとることが出来ないような話もあるよう
658 に思います。学校や大人が準備した連携プログラムに、ただ生徒・子どもを当てはめていくような
659 ことになっているとしたら、要注意だと思います。

660 一方で、生徒の主体性を信じて、それを発揮させるためのきっかけづくりについては、今日の一
661 番の宿題として持ち帰りたいと思いました。

662 雑談のようで恐縮ですが、例えば、昔からテレビなんかであった全国高校生クイズ大会のように、
663 「高校生である」というだけで社会的な立ち位置とか役割が担保されているような企画があります
664 ね。そこに「地域」とか「地元」とかいうものと、自分の高校、自分自身とのつながりを認識でき
665 るような仕掛けを含める形で、きっかけづくりを考えられたらいいと思いました。

666 高校生なので、それなりに自分で自由に遣えるお金を持っていたり、行動圏域も広くライフスタ
667 イルも多様で、小中学生とは違う形での地域との関わりようがあることは大前提だと思います。世
668 界に目が向いているような生徒もいますし、地元に残りたい生徒も、残らざるを得ない生徒も、い
669 るでしょう。

670 文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では、地域魅力化型、グローカ
671 ル型、プロフェッショナル型の3パターンに分けて、高校と地域との連携事業を進めていますよね。
672 この3つの類型は、ここでの議論を整理するのに参考になるだろうと思います。

673 ○小池会長

674 地域魅力化型、グローバル型、これはシンク・グローバル、アクト・ローカルでしょうか。考え
675 るときは世界的な視野と問題意識で、具体的な行動は地域で取り組んで解決していく考え方です。
676 それとプロフェッショナル型の3つの類型があります。

677 確かに、探究の学習が出てきたことで、本当に地域課題を深掘りしている生徒がいます。一方、
678 大学の面接対策で、プログラムされた探究学習が提供されている場合も見られるということです。

679 県立学校、特別支援学校の生徒たちがいて、そこにある教育活動は学校ごとにそれぞれの目的が
680 あります。さらに豊かに子どもたちの教育を支えていくために、地域と連携しながら、新しい活動
681 をどのように作り出していくのか、というところにおいても議論が必要です。

682 一方には、あまり大人主導ということだけではなくて、生徒の主体的な、自由な発想が第一にあ
683 って、それに対して支えを構築していくべきではないか、順序の問題も大事であるという御意見で
684 した。杉下委員お願いいたします。

685 ○杉下委員

686 藤沢市の小学校の学校運営協議会について、コーディネーター探しの参考にお話します。

687 本年度最後の会議の議題の一つに、新委員の募集が上がっています。学校運営協議会には地域の
688 人たちが入っているのですが、人材探しも議題として挙げています。定員には余裕がありますが、新し
689 く入りたい委員の方が見つかった際にすぐ入れるように、ゆっくり定員に合わせていく計画です。

690 私も地元の間人でありながら、伝統文化の活動団体の会長として参加しているので、地域とテーマ
691 の2つの中では、テーマ枠での参加かと思います。

692 昨年度から藤沢市の3、4年生が使える社会の副教材に、伝統文化の記述を4ページいただいて、
693 私も写真付きで掲載されました。そこから、他の学校の方にも展開をして、伝統文化をテーマに地
694 域連携をしようと、1月だけでも藤沢の小学校3校で授業をしました。実質的なコーディネーター
695 の動きができたと思います。

696 テーマから人材を集めることに関して、テーマで活動する人は、住んでいる市町村こだわらず、
697 広域で活動できると思います。県を飛び出した活動もあるならば、県の方で、テーマで活動できる
698 地域コーディネーターをデータベース化していただければ、学校がお願いしやすくなるかと思いま
699 す。

700 もう一つ、小学校での授業について、今までボランティアでやっていましたが、年々活動が増え、
701 材料費等の細かい持ち出しの負担が大きくなってきているので、教育委員会に相談して、最近では実
702 費ベースで謝金をいただいています。材料代ベースの謝金を提示する団体もある中、費用が無くて
703 お願いできない学校もあるようです。このような場合に、教育委員会の予算で謝金を用意して、実
704 費ベースのところは負担できる形になれば、学校の費用的な負担感が減ってお願いしやすくなるか
705 と思います。1件数千円ほどのはずなので、額もそこまで大きくはならないかと思います。

706 最後に、学校側の推進について、先ほど事例にもあったキャリアコンサルタントに地域との連携
707 をお願いしたらいいのではないかと感じています。

708 高校を出たら大学に行く流れがまだ大枠としてありますが、時代が変わってきて、AIなども普
709 及してきたら、将来の夢を形にするには、高校卒業後に大学や大学院ではなく、専門学校や就職を
710 進路にした方がいい場合もあるかと思います。

711 そういったことを考えるのがキャリアコンサルタントです。実際に今、教育委員会の方でキャリ
712 ア・パスポートを作っているけど、あまり活用されていませんが、キャリアコンサルタントが連携を
713 して取り組めばいいのではないのでしょうか。学校の先生も、生徒の希望する多様な夢や職業に対し
714 て、取るべき資格などのフローチャートが見えにくいと思います。そういう部分で地域連携をする
715 と広がりもあるのではないかと感じています。

716 ○小池会長

717 貴重な御意見ありがとうございます。

718 地域学校協働活動推進員を見つけるのが、大変だということであれば、テーマの枠で人材バンク
719 のようなものを用意していただくことで、学校が良さそうな人をお願いできるシステムも考えうる
720 ということでした。

721 また、先ほどから言っている地域コーディネーターについて、善意のお金の持ち出しにならない
722 ような形の財的支援の基盤や、謝金について県の方でシステム的に推進していくことをお考えいた

723 だけるといいという御意見でした。

724 ありがとうございます。それでは今日皆様から貴重な御意見をいただいて、前回の御意見にま
725 た重ねて、私どもの生涯学習審議会の意見を集積していきながら、次回が最終回ということになり
726 ます。これまで意見を集約して、県の方に上申する要素を最終確認する会を次回の審議会とさせて
727 いただきたいと思います。それでは最後に事務連絡をお願いしたいと思います。

728 ○事務局

729 御連絡いたします。本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。今回の
730 審議の内容を受けまして、第4回審議会を来年度予定しております。

731 詳細につきましては、会長と御相談させていただき、後日御連絡いたします。

732 ○小池会長

733 どうもありがとうございました。それでは第3回の神奈川県生涯学習審議会は、これをもって閉
734 会とさせていただきます。どうぞ皆様、お帰り気をつけてお帰りくださいませ。ありがとうございました。
735 ました。